

質問4. ジェンダーについて(自分で記述する)

回答者 番号	自分で記述する(Self-describe) 記述
	記述なし

質問5. 所属する学会について<複数回答可>(その他)

回答者 番号	その他記述
※	SfN, AHA, 日本Cell death学会
※	日本再生医療学会
※	日本基礎老化学会
※	日本バイオインフォマティクス学会
※	日本眼科学会
※	日本ミトコンドリア学会
※	日本動物学会
※	日本放射線影響学会
※	日本薬学会
※	日本蛋白質科学会
※	microbiology
※	日本実験動物学会
※	日本エピジェネティクス研究会
※	日本生理学会、日本平滑筋学会、

質問6. オンラインポスター発表について〈複数回答可〉(その他)

【回答項目】

1.よかった      2.よくなかった      3.オンラインポスター発表には参加しなかった      4.その他

回答者 番号	回答	その他記述
※	2/4	オンラインポスター発表という企画自体が開催する意味がまったくなかった。
※	2/3/4	特に見る機会が無く、ラボのメンバーからもオンラインポスターに出したいという声はなかった。
※	3/4	前日は移動で参加できず。オンラインでやるなら、もっと日を空けて本開催の一週間前とかでよいのではないか。

質問7. 指定シンポジウム(135分・8件)について<複数回答可>(その他)

【回答項目】

- 1.よかった      2.適切でないと感じる点があった      3.その他

回答者番号	回答	その他記述
※	2/3	分野が同じものが多すぎる
※	2/3	面白いけれど少し長くて集中が持たない場面があった。5分のトイレ休憩などがあるとより良さそうと思った。
※	3	特に面白いと思える物がなかったこともあるが、ポスター会場のマリンメッセと国際会議場の距離が思ったよりあるので、天候が悪い(今回は特に横殴りの風雨だった)こともあって、会議場に行くのがおっくうになりました。
※	2/3	シンポジウムの長さが2時間程度というのは一般的な長さだとは思いますが、私はどうしても最後の方集中力が切れてしまいます。せっかくの貴重な講演なので、途中でコーヒープレークみたいな時間をはさんでもっと集中して聞けたらなあと思います。
※	2/3	1つのシンポジウムしか新しさを感じなかった。
※	2/3	興味あるセッション(同分野)が同時間内に重複していた。

質問8. 公募シンポジウム(135分)・ミニシンポジウム(80分)について<複数回答可>(その他)

【回答項目】

1.よかった      2.適切でないと感じる点があった      3.その他

回答者番号	回答	その他記述
※	2/3	分野が同じものが多すぎる
※	3	参加できませんでし。ライブ配信のアーカイブ視聴を強く希望します。
※	2/3	135分のものについては、面白いけれど少し長くて集中が持たない場面があった。5分のトイレ休憩などがあるとより良さそうと思った。80分はそのままでも大丈夫かもしれないです。
※	2/3	時間が遅かった。最終日の最後のセッションは、とても参加人数が少なかった
※	2/3	当初150分の募集であったにも関わらず採択後に135分になってしまったため、一人当たりの発表時間や、一般からの採択件数を減らさざるをえなかった。ミニシンポジウムは一般ポスターからの採択を行わなかったのもあり、一般ポスターからの採択率がとても低くなってしまい結果として若手研究者の口頭発表の機会が大きく損なわれたと感じた。学生や若手研究者の成長の機会をきちんと設けるために、ミニシンポジウムと公募シンポジウムの一本化をした方が良いと思う。海外演者を2名招聘できたのはとてもよく、国際的な連携が推進されたと思う。
※	2/3	多すぎる
※	2/3	会場がかなり狭く、十分に聞くことができなかった
※	2/3	シンポジウムの長さが2時間程度というのは一般的な長さだとは思いますが、私はどうしても最後の方集中力が切れてしまいます。せっかくの貴重な講演なので、途中でコーヒープレークみたいな時間をはさんでもっと集中して聞けたらなあと思います。
※	2/3	一部しか内容が面白くない。
※	2/3	発表後の質疑応答はどちらの言語でも可というようにして、発表言語は発表者が選べるようにしていただけると、特に海外からのシンポジストにとっては負担が少なかったと思います。
※	2/3	シンポジウムの時間がやや短いと感じた。

質問9. 公募シンポジウムの企画応募条件に「指定演者のうち70%以上を特定のジェンダーとしない」が入っていたことについて〈複数回答可〉(その他)

【回答項目】

- 1.賛同し支持する      2.理解はするが適切か疑問が残る      3.適切でないと思う      4.その他

回答者番号	回答	その他記述
※	2/4	ジェンダーで選ぶのは科学ではないのでは？昔はそういう時代があったのかもしれませんが現代でやるのは意味不明です。
※	4	知らなかった
※	3/4	シンポジストのジェンダーに関わらず有益な発表を企画するべきで、その結果として女性100%になろうと男性100%になろうと関係ない。
※	2/4	取り組みとしては良いと思いますが、特定の方(特に女性)の負担が大きくなっているように感じました。
※	2/4	特定のジェンダーに偏らないようにするという点には強く賛同するが、現在の研究の男女比から考えた場合にどうしても「女性だから選んだ」、相手側からしても「女性だから選ばれた」という意識が出てきてしまい、申し訳ない気持ちになった。まだ70%にするには少し強制が強すぎる数字なのではないかと思う。今後そのような意識も生じないような時代になることを心から祈っていて学会側に対しては適切な速度感での男女比(特定の偏りのないジェンダー比)への補整をリードして行ってほしい。
※	2/4	ジェンダーを理由に発表の機会が失われるようなことがあってはならないが、分野によってはジェンダーの偏りが大きいので、わざわざ割合を指定することに疑問が残る。「複数ジェンダーを含むこと」などの努力義務にとどめてもよかつたのではないか。
※	3/4	分子生物学の分野ではもともとあまり性別の違いによる待遇の違いを感じたことがないので、応募条件に性別による条件がある方が、返って待遇の差別を生んでしまうように感じます。
※	2/4	客観的にいい研究をしていると評価されるのに、自分の性別のせいで発表機会を失った研究者(男性)がいることが想定される上、シンポジウムの質の低下を招いた側面もあるかもしれません。そもそも、ジェンダーを問わずいい研究ができるような社会的基盤があれば、ジェンダー比が偏ることもないのではないのでしょうか。今回のような発表の機会だけでその偏りを是正することで、具体的にどのような効果が期待されるのか、理解しかねます。以上、ジェンダー比云々というのは国の方針であり、学会としてもそれに準拠したというご事情は理解しますが、発表機会を偏らせることは必ずしも健全ではないと考えます。
※	3/4	研究内容で決めるべき。もしくは、ジェンダーを隠した状態で判別する手法を取るべき。
※	4	特に意見ありません。
※	3/4	自分が参加したシンポジウムでは女性が少なかったが、自分が聞いていて最も面白かったのはその内の一人の発表だった。そもそも女性の競技人口が少ないので、無理やりジェンダー平等で枠を設けるのは悪手であり、そんなテコ入れをしなくても面白い研究をしている人はきちんとスポットを浴びるはず。

質問10. オンサイトのポスター発表について〈複数回答可〉(その他)

【回答項目】

1.よかった      2.よくなかった      3.その他

回答者番号	回答	その他記述
※	3	参加していない
※	2/3	ポスター賞の二次審査員を務めたが、事前に送られてきた審査基準に合わないために、審査した11演題中最低の評価にした演題が受賞していた。事前にポスター作成者にも今回の評価項目が伝えられていたのかも疑問。また、発表者のプレゼンテーション、質疑応答は審査に含まれないのであれば、事前にポスターデータを送付させて書類審査が良いと思う。今回の口演会場とポスター会場が離れていて、ポスター会場に行く時間が発表時間の2時間しかないのに、奇数演題時間終了の1時間のうちにポスターを精査して審査するのは現実的に不可能に近い。
※	3	ポスター発表の後に聞きたいシンポジウムなどあったので、ゆっくり回ったり聴く時間がなかったので残念だった。
※	2/3	発表時間が短い。これでは議論する時間が限られ、また聴講するポスターも限られてしまう。
※	3	参加していない
※	2/3	3時間あっても足りないぐらい毎年ディスカッションがはずむ。
※	1/3	ポスターの数が多いので、ポスターパネル等に#〇〇から〇〇代謝、#〇〇から〇〇免疫といった案内を表示してくれると見やすいと思います。

質問11. 各日のタイムテーブルについて〈複数回答可〉(その他)

※英語のシンポジウムを全日程に配置、シンポジウムの時間帯は常に日本語/英語セッションが並行

※シンポジウム(135分)の前にミニシンポジウム(80分)を配置

※オンサイトポスター発表は午後一番の時間帯

【回答項目】

1.よかった 2.よくなかった 3.その他

回答者番号	回答	その他記述
※	2/3	オンライン参加の場合、午後の開始時刻が分かりにくかった。
※	1/3	ポスター発表をしましたが、会場移動もありこの時間で適切だったと思います。
※	3	参加していないので感覚が分からない。
※	3	9時から20時半は少し長すぎると感じました。
※	1/3	公募シンポジウム、指定シンポジウム、ミニシンポジウム、それぞれのコンセプトの違いが明確に示されていると、聴講セッション選択の一助になったかもしれません。
※	1/2/3	分子生物学会の方向的に国際化を目指しているのなら海外からの演者招待+英語発表は同意だが、それに伴う招待料や渡航費支給と昨今の研究界隈の財政状況を考えると費用対効果はあまり大きくない気がする。どちらかというと、昔ながらの日本中から研究者が集まり、ある種の同窓会のような気さくな雰囲気ですら日本語で語り合える場が良いのではないかと思う。学生が一番最初に参加する学会としても、そのほうが沢山コミュニケーションの機会に恵まれるだろうし、後進育成にも良いのではないのでしょうか。
※	2/3	夕方の最終時間の繰り上げをして欲しい。特に最終日。翌日の業務もあるのでなるべく最終日には帰宅したい。



質問12. フォーラムについて<複数回答可>(その他)

【回答項目】

1.よかった

2.よくなかった

3.フォーラムには参加しなかった

4.その他

回答者番号	回答	その他記述
※	2/4	遅い時間ばかりは困る
※	3/4	時間が遅すぎるため参加しなかった。
※	3/4	フォーラムは遅い時間であったことに加えて、どんなコンセプト(狙い)なのかも分からなかった(シンポジウムとの違いは何?)ので、参加していません。

質問13. 年会で導入したシステム・サポート体制などについて〈複数回答可〉(その他)  
 ※アトラス社Confit: 年会参加登録/演題登録、要旨・プログラム検索/視聴サイトシステム  
 ※オンラインポスター・講演セッションはZoomウェビナー使用

【回答項目】

- 1.不便を感じず年会に参加できた      2.不便を感じるがあった      3.その他

回答者番号	回答	その他記述
※	2/3	webを開くたびにログインを求められとてつもなく不便でした。今までで最悪でした。改善を求めます。
※	2/3	現地に参加できないためオンラインで参加予定でしたが、ライブ配信の時間が合いませんでした。アーカイブ視聴を希望します。
※	2/3	ブックマーク機能は優れていて良かったが、3日目のポスター演題1つが間違って2日目に配置されているバグがあった。アトラス社はデバッグをもっとしっかりやるべき。
※	2/3	要旨検索システムはスマホでは使いづらかった。毎回ログインを求められてしまうこと(サイト内のパスワードを記憶するを選べば避けられるのかもしれないがあまり記憶させたくないため)、一番不便だったのは、ポスターのある要旨を見に行く、演題一覧に戻った時に毎回最初に戻ってしまうため、どこまで演題をチェックしたかわからなくなってしまう。演題が多過ぎるため項目ごとにもう1段階選択できるようにすると改善するかもしれないです。
※	1/3	オンサイトで参加していてもZoomで講演を視聴できる点がよかったです！会場が人で埋まっていて落ち着いて聴講できなくても、Zoomで内容を把握できる点がよかったです。
※	3	参加していないが、タイトルだけ閲覧可能だったのはよかったです。
※	2/3	wifiが切れると、ログアウト状態になるので、会場ですらいちいちログインし直さなければならぬのが、少し面倒ではありました。
※	2/3	各部屋に置いていた表のように、シンポ名とその中で行われている個別の講演は、検索システム上で俯瞰できるようにしてほしい。特定の講演に興味が無い限り、そのセッションで何が行われているのか全く分からず、俯瞰的に聞きたいシンポを決めることがとても難しかった
※	2/3	サイトはしょっちゅうログインしなおさないとダメだったので、すぐ抄録をみたい時に不便を感じました。スマホやパソコンもその都度にバッテリー消耗されます。
※	2/3	シンポジウム名だけでなく、演題名と演者が手元の冊子に記載されていた方が回りやすいと思いました。Confitのシステム自体は見やすくいいと思いました。スマホでいちいちログインをして検索しないといけないのが地味にかなりの手間でした。オンラインでも見れるのはいい制度だと思いました。
※	2/3	滞在ホテルでは機能するのに、Confitが会場にて、スマートフォンでうまく機能しなかった。
※	2/3	Confitはwebツールのため、ポスター会場で移動していると通信状態の問題か、開くたびに毎回ログインを要求され、非常に不便であった。また、ブックマークしたセッションが自分のGoogleカレンダーなどにリンクする機能も、Confit内でマイカレンダーを作る機能も無く、不便であった。検索もページ間移動も使いにくかったです。まずは、アプリ化が必須ではないでしょうか。
※	2/3	PCで表示できるサイトとスマートフォンで表示できるサイトが異なることがある前提で各種情報を会場で確認していた。年会参加登録/演題登録、要旨・プログラム検索/視聴サイトシステムをスマートフォンからPCと同じサイトで視聴できることを事前にアナウンスされていればもう少しスムーズに回れたと思う。
※	2/3	年会終了後にプログラムが見れない・・・
※	2/3	ダウンロードしたPDFのプログラムが読み取り専用でタブレット上で書き込みができなかったのが不便だった。メモ書きができるように編集権を制限しないでほしい。

質問15. 経費節減のため参加章・ポケットプログラム(日程表などのプログラム小冊子)の事前送付を行わなかったことについて<複数回答可>(その他)

【回答項目】

- |                              |                      |
|------------------------------|----------------------|
| 1.特に手間や不便さを感じなかった            | 2.年会参加費を抑えるためなら許容できる |
| 3.年会参加費が多少上がっても事前に印刷・郵送してほしい | 4.その他                |

回答者番号	回答	その他記述
※	3/4	字が小さく、シンポジウムタイトルも短く、シンポジウムの内容が予想できない。結局オンラインで見直さなきゃ行かなかった
※	2/4	ただし、参加賞のコピーなど不正が横行しそうな気がする
※	1/4	年会事前登録した会員には希望により、ポケットプログラムは送って欲しいです。とても便利なので。
※	1/4	年会参加費と年会費が下がるならこういった取り組みはどんどん行ってほしい。
※	4	ポケットプログラムは、あまりに簡易すぎて役に立たなかった。

質問19. 分子生物学会では「学会・年会の国際化」を促進しています。そのために、100～200万円程度を年会の特別予算として用いるとしたら、どのような使途がよいと思いますか<複数回答可>(その他)

【回答項目】

- 1.海外機関と連携して年会参加者向けの実用的な企画を行う費用
- 2.公募シンポジウム等で海外演者を招聘する際の旅費補助増額
- 3.海外在住の若手会員へ年会旅費を援助
- 4.講演セッションの通訳・字幕サービス等の言語サポート費用
- 5.その他

回答者番号	回答	その他記述
※	5	口演発表を、現地発表とオンラインのハイブリッド化をどんどん進めて、海外から来日せずに発表できるように。コロナ禍で開催されたシンポジウムが今までで一番国際化されていた気がする。
※	1/5	同じセッションで講演していた海外の演者が、「どうしてこんなに日本語の発表が多いのか」「サイエンスの言語は英語なのに、なぜ皆英語話者がいる中でも日本語で議論しているのか」と疑問を口にしていたので、ぜひ国際化を進めていてもらいたいです！
※	4/5	ジェンダー問題なんて些細なことに気を配るのではなく、字幕や音声サービス(読み上げ機能等)で、身障者に配慮した方がよいと思います。
※	4/5	国際化したいというのは理解できますが、とはいえ日本人としては、日本の学会なのに英語で聞いて英語で発表しないといけないうのには疑問を感じます。その点、「4. 講演セッションの通訳・字幕サービス等の言語サポート費用」はかなり良い使途だと思います。

質問21. 今後の年会の開催形式について〈複数回答可〉(その他)

【回答項目】

- 1.オンサイト開催を基本としたハイブリッド開催がよい  
 2.オンライン先行プログラム+コンパクトな完全オンサイトの併用がよい(MBSJ2023神戸年会形式)  
 3.完全オンサイト開催がよい                      4.完全オンライン開催がよい                      5.その他

回答者番号	回答	その他記述
※	1/5	ライブ配信はアーカイブで視聴できるようにしてほしいです。今回できないのは残念でたまりません。今からでも対応できませんか？パラレルセッションが多いので、現地参加者にも有用だと思います。
※	1/5	オンラインポスター発表は廃止。口演発表はオンサイト開催を基本としたハイブリッド開催。若手の表彰企画はどんどんやるべきで、審査方法の見直し(ポスター発表を聞いて評価したい)および審査基準の事前告知と透明化。
※	1/5	満席で部屋に入れないセッションがあったため、オンサイトでもzoomをやってくれたことが大変助かりました。部屋に入れるのが一番ではありますが、、、(それでも配信には大感謝でした)
※	1/5	並列するセッション間で、類似する内容の口頭発表が発表されていたことがあった。物理的にどちらかしか参加できないので、その場合はオンデマンド配信があればよかったと感じた。
※	3/5	育児中で参加出来ない会員の人たちにオンデマンド配信などあった方が良いと思う。
※	1/5	オンラインのスライドや音声が大変きれいで、ストレスなく視聴できました。複数のシンポジウムに興味がある演題が分散していても、WEB上では即座に切り替えができ、移動時間のロスがないのは助かりました。来年度以降も同様なシステムを希望します。
※	3/5	オンライン参加のみで学会参加したことになるのはよくないと思う
※	3/5	最盛期に比べて発表数も減少してきていると思います。また、生化学会と重複した発表もあるように思います。そこで、他学会との重複発表を減らすように促し、会場を大学等にすることで経費削減は出来ないのでしょうか？
※	1/2/5	会場に入りきれず、外の廊下やベンチに座ってインラインで聞かざるを得ない方をたくさん見かけましたので、部屋が狭い場合は廊下にモニターとスピーカーを出したり、なにかの対策を対策を行ったほうが良いとおもいました。
※	1/5	今回は開催地が九州と遠く、旅費がかなりネックだったので、シンポジウムをすべてオンラインで聞けたのがものすごくありがたかったです。ちなみに、シンポジウムをオンラインで聞けるというのは事前にどこかで告知がありましたでしょうか？結構直前になってから知りました。シンポジウムをオンラインで聞けるというのをもっと早く(早期参加登録締め切りの前に)知りたかったです。

質問22. 今後の年会における他学会との連携についてお聞きします<複数回答可>(その他)

【回答項目】

- 1. 単独開催/他学会と連携企画/他学会との合同大会が、数年ごとにあるのがよい
- 2. 他学会との連携企画を増やすのがよい
- 3. 他学会との合同大会を増やすのがよい
- 4. ConBio2017の時のような、コンソーシアム形式の合同大会がよい
- 5. 他学会との合同開催・連携企画の必要性をあまり感じない
- 6. その他

回答者 番号	回答	その他記述
※	3/4/6	分子生物学会と生化学会は被っているの、合同開催を基本にしてほしいくらいです。ConBio2017もとても楽しかったですし、知り合いも増えました。
※	2/6	まずは年々減っている参加者の数を増やしてほしい。単純に昨今の研究費の減少が大きな原因のひとつで、学生ですら参加費を自費で払っているのはどうにもおかしい。派手な企画で盛り上げようとするのは分かるが、昔のようにもっと気軽に参加でき、沢山の出会いがある学会に戻してほしい。

質問23. 前問までの設問・回答に関連するコメントや、その他年会全般についてのご意見があればお書きください。ここが良かったので続けてほしい、あるいはここを工夫すればさらに良くなるといった改善案など、率直なコメントを広くお寄せくださるようお願いいたします。

回答者番号	意見記述
※	ランチョンセミナーは事前予約できるようにするべきでは？
※	オンラインで参加できるのはありがたいのですが、ライブ配信しかないのは不十分に思いました。アーカイブの見逃し配信を強く希望します。また、非会員の参加費があまりに高額なので、他の学会との連携をはかることでの減額を希望します。昨今多様な規模の学会が乱立する傾向にあり、融合分野に携わる場合、全ての関連学会に加入をするのは非現実的です。
※	初めて分子生物学会に参加しましたがとても楽しかったです。大規模すぎてお祭りのようでした。出店も美味しくて楽しかったです。有名な研究者などもポスターにふらっと見に来ていただけてとても嬉しかったです。プログラムをもう少しみやすくしていただくと、もっと最高な学会になると思いました。昔別の学会で使った●●というアプリが比較的使いやすかったです。自分が観に行きたい演題で自分専用のスケジュールを組めたような気がします。違ったらすみません。来年もぜひ参加したいと思いました。ありがとうございました。
※	ネームプレートを自分で印刷するのはそれほど手間ではなかったのですが、来年もこのままでも良いと感じた。参加人数が増えているのか、口頭発表会場は人数が多く、部屋が狭いように感じた。ポスター会場は広く、適切な幅と広さだと感じた。
※	今回は7時や8時までの遅くまでのプログラムがあったので、私の場合は同じ九州で日帰りは出来たが、共働きの家庭にはきつかった。おそらく宿泊で会場に来て、子供を預けている人たちにとっても保育代などが加算したり、聴くの諦めたりと興味ある分野を聴くことができなかったのではないかと思う。乳児から小学低学年くらいまでの子育て中の人たちでもストレスなく参加できる会であって欲しいな、と期待します。
※	サイエンスピッチや一般口頭発表など若手研究者や学生の活躍の機会を減らさないでほしい。ポスター賞もかなりノミネートを絞っている印象があり、負担にはなるかと思うがもう少し審査など幅広く行ってあげてほしい。今年度の学会は若手の活躍より、シニア研究者がメインな会に感じた。シンポジウムなどの要項にジェンダーだけでなく若手を含めることや若手研究者の座長を優遇するなど、若手研究者をエンカレッジするような学会にしてほしい。
※	会場内のWiFiの接続環境に差があった。繋がりがやすい場所と全く繋がらない場所があり、セッションを聞き逃すなどの弊害があった。
※	最近のどの会場でも食事をとるのがとても不便に感じます。ランチョンセミナーで配られる弁当がなければ屋食がとりにくいことは、不健全に思います。その弁当の代金も企業に負担してもらうことも好ましくないように思います。企業のブース出店の費用も高額のように、小さな会社、本屋など出店を控える傾向が続いているように思います。いろいろな会社が新しいアイデアで研究をサポートしているように思いますが、小さな新しい会社も出店できるように改善した方がいいように思いますが、どうでしょうか？
※	ポケットプログラムにあるよりも詳しい情報は、オンラインでないと確認できないのが不便でした。もう少し詳しい情報を確認したくても、館内のwifiは弱くてつながらないところも多く、アプリは使えないところが多かったです。個人のスマホでは、画面が小さく使いづらかったのと、ダウンロードできるPDFファイルは要旨本体まで同じファイルになっているために重すぎてタブレット端末程度では検索ができないのが不便でした。PDFはもう少し容量を下げるか要旨とプログラム部分を別にしてほしいです。
※	ランチョンのお弁当が冷たすぎた
※	会場までのアクセスは若干不便さを感じた。会場自体は2019年よりも使用箇所を減らした(コンパクト)にしたおかげで、シンポジウムの会場の移動に苦労せずに大変有り難かった。一方でポスター会場の行き来は少々不便に感じた(が、現状が今のところ良いと感じた)。
※	私は非常勤の研究者なのですが、分生のシンポジウムは聞きたいなと思って今回参加しました。自分自身は発表をしなかったのですが、研究室の発表をしないのであれば参加費・旅費・宿泊費はサポートしませんという方針で、自腹で参加費を支払いました。非常勤の研究者はかなり薄給なので、正直分生の参加費はかなり痛手でした。「研究員」にもいろいろあると思うので、なかなか線引きが難しいとは思いますが、薄給の研究員にとってはもう少し参加費が安いとありがたいなあ・・・と思いました。
※	不便を感じる点もなくはなかったのですが、全体としてはとても楽しかったです。企画・運営ありがとうございました！
※	Q11,Q12に記した各セッションのコンセプトは、常連参加者には常識なのかもしれませんが、参加者の中には「分子生物学会初心者」も多いと思いますので、どこかで説明があるとありがたいと思います。Q13,Q14に関連して、開くたびにロゲインを要求されたり、カレンダーとの連携が無いことなど、Confitは非常に非常に不便で非効率的でした。Confitは低コストなのかもしれませんが、安かろう悪かろうという印象しかありません。来年は絶対にヤメてほしいです。
※	オンラインポスターでの発表を行ったが、担当の時間をもう少し分けた方が(今は1時間)、発表者も同時開催のほかのポスターに参加できていいと思いました。
※	研究費が上らない中で日本の研究者はよく頑張っていると思うが、そろそろ限界が見えてきた気がする。研究者だけで議論していても、業界外の人間には全く伝わらないというのがここ数年で身に染みて感じたので、学会のような人が多く集まる場を利用し、政治家も招いて現状を伝えていく必要があるのではないか。